

# 平成28年度 鳥取県西部地区中学校学びの共同体研究会 実施レポート

期日 平成28年6月21日(火)

会場 境港市立第一中学校

## ◎ 研究テーマ 「学びの共同体」(協同的な学び)の理論と実践

### 1. 公開授業(9:50～11:30)および指導助言(11:40～12:25)

#### (1) 3年数学「根号を含む式の計算」

共有課題を通して本時に習得すべき公式を理解させており、教師の教え込みにならなかったのが良かった。ジャンプ課題におけるグループ学習では教え合いができていた。ジャンプ課題の4問目はかなり難しかったので、補助的なヒントがあったほうがよかったかもしれない。教師のグループ学習における各グループとのかかわり方は、それぞれのグループに個別にヒントを出したりアドバイスをしたりするのではなく、生徒同士で考えるように仕向けていく。グループ内の全員がわからないときに教師を呼ぶようにさせる。そうしないと、考えないですぐに教師を呼ぶ生徒が増えてしまう。全体で共有するときは、なるべく学力の低位の生徒を指名する。その生徒に自信をつけさせるとともに、他の生徒が自分も発表したいという意欲がわくようにしていく。そのためには、机間巡視の中で問題が解けているかどうかを確認しておく。

#### (2) 1年社会「世界の人々の生活と環境」

カラー写真を多く使用し、視覚に訴えていて、生徒の関心をひくものとなっていた。共有課題は、写真を見ながら生徒が理由をあげて解答していた。ジャンプ課題は、世界各国のマクドナルドの店の写真を使って国名を考えるものであったが、生徒の関心・意欲を高めるものとなっていた。ただ、次時の宗教との関係に気づかせることはできていたが、理由が複数の国にあてはまるため国名を特定することが難しかった。振り返りは、自分の言葉で学習を振り返らせていて良かった。挙手で授業を進めていたが、発言するのが得意な生徒ばかりになってしまうので、できない生徒を授業に参加させるためにも指名がよい。コの字の隊形を使っており、互いの顔を見ながら生徒の発言を中心に授業を進めていたのは良かったが、なるべくなら中央を広く空けて、本来のコの字の隊形で授業を行うのが良い。

### 2. 研究授業(13:50～14:40)

#### 2年理科「動物の生活と生物の進化」(学習指導案は別紙)

授業参観の視点……「学びの共同体」(協同学習)の理論・方法を取り入れ、かかわり合い学び合う主体的な活動を通して、「確かな学力と豊かな心を育み、みんなと生きる生徒の育成」をめざした学習活動の展開

①生徒が主体的に学び、学習(教科)のねらいを達成する(確かな学力を育む)ための「学ぶ値打ちのある課題」となっているか。

- ・「共有の課題」(基礎・基本、知識・理解、技能)
- ・「ジャンプ課題」(応用・発展、技能、思考・判断・表現力)

②個々の生徒の学びや、生徒同士のかかわり合い学び合い(班・全体)が成立していたか。

- ・「共有の課題」における班活動(個人作業の協同化…わからないときに聞く)
- ・「ジャンプ課題」における班活動(他者の意見を聞き、自分の考えを深め広げる)
- ・全体学習(対面)……表現の共有(聴き合い、生徒の意見をつなぐ)

### 3. 研究協議および指導助言、講義 (15:00 ~ 17:00)

- (1) 「学びの共同体」に基づく授業づくりについて
- (2) 授業者の自評
- (3) グループ討議……参加職員が4人グループに分かれて、授業参観の視点について協議した。
- (4) 指導助言および講義

講師：学びの共同体研究会 スーパーバイザー (元東大阪市立金岡中学校長) 馬場宏明先生

#### ○グループ学習

生徒たちは学び合いのルール・マナーをよく理解している。グループになってもすぐに話し出さず、わからないところがあったときに、ささやくように話していた。グループ学習は、わからない生徒が聞きやすいようにするためにある。グループ学習をしているときに「もう少し時間がほしい人？」と尋ねてはいけない。「もう少し時間がほしい」生徒が一人でもいれば、ほとんどの生徒が終わっていても、その生徒を待たなければならない。教師の意思で切り上げなければならない。目安としては、5～6割の生徒ができたころ。しない生徒はいつまでも待ってもしないものである。

グループ学習の意義は、できない生徒をできるようにするためである。グループの生徒に聞くことで問題を理解することができる。その際、ただ単に答えを教えてもらうのではなく、自分で説明できるようにしておく。そういう生徒を全体の場で指名し、前に出させて活躍させる。人前で発表するのはうれしいものである。また、説明した生徒は、そのことをよく理解し、覚える。人に教えてもらった生徒は自分で手を挙げづらいので、教師が指名してやる。できるだけ学力的に厳しい生徒やがんばらせたい生徒を指名する。

#### ○学習課題

ジャンプ課題のときは、写真(生徒一人一人に白黒写真、班に1枚カラー写真)と解説(文章のみ)の資料が配られたが、意外に解説をよく読んでいた。発表のときも、一人目の生徒が理由をわかりやすく言いながら発言していたので、あとの生徒もそれに習って上手に発言していた。発表のさせ方は難しいが、はじめに教師が発表の仕方を説明しておくのがよい。生徒がやる気を出し、集中する資料だった。学び合う風景ができていたのはとても良かったし、みんな授業に参加していた。

#### ○アクティブラーニング

アクティブラーニングは、「主体的」「対話的」「深い学び」の3つの視点があるが、簡単に言うと受動的な学習から能動的な学習に転換することである。受動的な学びでは、生徒は学びから逃走する。能動的学びとは、「活動的」ではなく、「主体的」とも少し違う。ましてやゲームではない。能動的学びは、創造的・協同的・技能的な学習活動である。

#### ○「協同的な学び」の授業づくり

- ・授業を「教える」から「学び取らせる」に変える。
- ・授業に少人数グループを入れる。どの子も学びから逃がさない、一人にしない。学ぶ楽しさ。
- ・グループ学習の約束

まず一人で考える。わからなかったら聞く。聞かれたら答える。聞かれるまでは教えない。

- ・授業の二段システム(共有とジャンプ)…… 知的好奇心。挑戦することが大事。

共有課題 … 教科書と出会わせて学びとらせる。

ジャンプ課題 … 教科書レベル以上の課題に挑戦させる。

学力は押し上げられるものではなく、引き上げられるもの。